



## 全力投球

のんきに『こころ』の話などしていたら、もう月曜日からは期末考査である。学級日誌を見ると、世界史も復習をやってくたさったようだし、数学や古典も復習があったようなので、その時の「忘れ具合」(笑)をしっかり認識し、この土・日は全力投球してほしい。

毎年、どうしても前期期末の結果は思わしくない。夏休み前にやっていたことを、あの長い40日の間にすっかり忘れてしまうということもあるだろうし、もう一つには、星陵祭に向けてしなくてはならないことが重なって、いつも以上に考査に向けての準備ができていないということもあるようだ。

例えば、国語科の隣の35Rでは、今週も朝練を毎日やっているし、放課後も下校までバッチリリハーサルをやっている。さすが3年生だけあって、もうBGMも入って本番さながら。演出係が場面を区切りながら指示を出しているが、漏れ聞こえてくる声や歌を聴いていると、ほぼ完成しているといってもよい感じである。さすが3年生…と言いたいところではあるのだが、一方で、「月曜日から期末ですよ」と言いたい気もする。3年生の文系古典を担当しているので、(35Rの面々の顔を思い浮かべながら…笑)この分で大丈夫なのだろうか心配になってしまうわけだ。(ちなみに、考査問題の原案を国語科で作ったりしていると、大きな叫びや歌声が聞こえて集中できないのである…泣) 考査一週間前、いや、5日前くらいからは、きっちりと勉強することも必要だとは思っているのだが、さて、来年の35Rはどうなることやら…。

ところで、宿題テストは、きちんと「力古

典3」をやった人は60~70点、やっていない人は~40点と、明かな結果となっている。

大学入試で君たちが志望するトップクラスの国公立大や私立大は、K成とかNとかT大寺学園とかT大駒場とか、いわゆる中高一貫生が志望する大学とまったく重なることになる。ところが、そういう一貫校と比べると、例えば古典などは圧倒的に授業時間が少なく、なかなか模試などをやっても追いつけない現状がある。その分、授業の質を高めようとがんばって努力しているわけだが、量の部分での差を縮めるのは、実際問題としてなかなか大変なのである。そこで、入試本番までには何とか「量」の部分での差も縮めようと、長期休業の際などに宿題を課したりしているわけである。しかも、その宿題として課すのにふさわしい教材を、国語科全体で、時間をかけながら検討してきているのである。

というわけで、「力古典3」をきっちりこなせていないという人は、星陵祭が終わった後でもよいから、しっかり見直しをしておいてほしいし、あるいは、秋以降、本格的に受験勉強に取り組もうとする際に、今までの模試の再復習とともに、「力古典3」の解き直しから始めてほしいところである。ちなみに、「力古典」の1~2を保存してある人で、古典があまり得意でないという人は、1から始めることを勧めておく。割と得意だという人は3のみでオッケー。

ということで、繰り返すが、気を引き締めて、できる限りの力を振り絞って、期末考査に立ち向かってほしい。FIGHT !!!